

## 第44回日独スポーツ少年団同時交流実施要項

本交流は、日独両国のスポーツ少年団の優れた青少年および指導者の相互交流により友好と親善を深め、国際的能力を高めると共に、両国の青少年スポーツの発展に寄与することを目的に、2015年に調印した「日独スポーツ少年団国際交流協定書」にもとづき、次のとおり実施するものである。

## 1. 主催

公益財団法人 日本体育協会 日本スポーツ少年団  
各道府県体育（スポーツ）協会 各道府県スポーツ少年団

## 2. 後援（予定）

スポーツ庁

## 3. 期日・期間

〔派遣〕 2017年7月31日（月）～8月17日（木） 16泊18日  
＜日本団集合（結団式）：7月30日（日）＞  
〔受入〕 2017年7月22日（土）～8月7日（月） 16泊17日

## 4. 派遣・受入人数および構成

両国ともそれぞれ125名を派遣・受入する。日本団の構成はブロック単位のグループ編成とし、ドイツ各州・各団体とのパートナー方式で交流する。

〔団員・指導者〕 122名（指導者は1グループ原則1名）  
〔団長団〕 3名（団長、総務、庶務）  
計125名

## 5. 日本団

## (1) 派遣資格

## 〔団員〕

日本スポーツ少年団シニア・リーダー認定者（平成27年度認定見込者を含む）又は所定の活動単位取得者（計20単位以上）又は所属道府県スポーツ少年団本部長より特別に推薦された者でかつ1993年4月2日～2002年4月1日生まれ（派遣年度に16歳～24歳の誕生日を迎える者）の平成28・29年度登録者。但し、申込者多数の場合は、シニア・リーダー認定者を優先する。また、これまでに日本派遣団として参加実績のある団員についても参加を認める。なお、本人の意向を確認したうえで、当該グループ以外の所属として決定することがある。

## 〔指導者〕

日本スポーツ少年団有資格指導者（認定育成員・認定員）で、原則として65歳以下の平成28・29年度登録指導者（役職員登録者含む）。また、これまでに日本派遣団として参加実績のある指導者についても参加を認める。

## (2) 推薦方法

別に定める募集要項により、各道府県スポーツ少年団が推薦する。

## (3) 日本団の決定

第1次選考：書類審査

第2次選考：第1次選考合格者を対象とする事前研修会

〔期間〕 指導者：5月3日（水）～5日（金）・団員：5月4日（木）～5日（金）

〔会場〕 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）

#### (4) グループ別事前研修会の実施

派遣決定通知後、全体での事前研修会の結果を踏まえ、共通テーマ・その他準備に関しさらに研修を積むため、各グループの指導者を中心にグループ別の事前研修会を実施する。

#### 6. ドイツ団受入担当区分等

(1) 来日直後および帰国直前における全体プログラム期間中は、日本スポーツ少年団が担当する。

＜全体プログラム（前半）＞

期間：7月22日（土）～24日（月） 2泊3日

場所：関西地区

＜全体プログラム（後半）＞

期間：8月5日（土）～7日（月） 2泊3日

場所：東京都

(2) 全国各地における滞在（地方プログラム）期間中は、関係道府県スポーツ少年団およびそのグループ内において担当する。

(3) 地方プログラムの実施にあたっては、各受入グループ幹事県を中心とした委員会を設け、その計画と実行にあたる。

#### 7. 経費について

〔派遣〕

負担金 1人25万円

〔受入〕

(1) 全体プログラム期間中の受入経費については、日本スポーツ少年団が負担する（各グループ離散集合費を含む）。

(2) 地方プログラム期間中の受入経費については、関係道府県スポーツ少年団等が負担する。なお、日本スポーツ少年団が手配する受入通訳の謝金については、各グループ幹事県より提出される通訳業務報告に基づき、日本スポーツ少年団が負担する。

#### 8. 共通テーマ

交流における研修成果をより高めるため、両組織間で設定した共通テーマに基づき、両国団員の身近な問題をディスカッションなど様々な形態と方法により研究する。

共通テーマは下記の通りとする。

共通テーマ：「私たちにできるフェアプレイ～周囲へのリスペクト～」

※本交流は「Sport for Tomorrow コンソーシアム」から「Sport for Tomorrow 認定事業」として承認を受けています。

Sport for Tomorrow とは、2014 年から東京オリンピック・パラリンピック競技大会を開催する 2020 年までの 7 年間で開発途上国をはじめとする 100 カ国以上・1000 万人を対象に、日本国政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業です。世界のよりよい未来を目指し、スポーツの価値を伝え、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントをあらゆる世代の人々に広げていく取り組みです。

～スポーツ界における暴力行為根絶に向けたスローガン～

暴力0（ゼロ） 心でつなぐスポーツの絆